

香南市消防本部が二次倒壊を防ぐ 香南式ショアリングシステムを開発

倒壊家屋を支える補強機材が 命を支える

地震等により被害を受けた建物等を安定化(ショアリング)させるには、木材や鋼管を使った「救助支柱器具」などが必要ですが、これらの資機材は、①高額である②多くの人員と材料が必要である③強度が明確ではないといった問題から、市の消防本部では導入することができませんでした。そのため、新たな資機材を開発できないかと、既存の資機材や技術を調査すると、建築現場等で使われている「支保工」という技術が「ショアリング」と似ていることがわかりました。すぐに支保工の業者に開発を依頼。共同で何度となく試作を繰り返した後、完成させたのが、香南市の名称が入った新補強機材「香南式ショアリングシステム」です。

安全確保に威力を発揮

この新補強機材は、軽量で設置時間も短く、救助の迅速化が見込まれます。考案者の一人消防本部の担当者は「次期南海地震における救助活動において、有効な資機材です。また、従来の製品と比べて安価で、少人数で設置が可能、強度も明確という点では、市のような小規模消防に適した製品です。この補強機材が、安全な救出活動に繋がれば」と、救助技術の向上に役立つ機材として期待を寄せていました。



防災講習の依頼を受け付けています。

東日本大震災の被災地の惨状は、想定外が現実になった事実として、地域住民の危機感を高めました。もし、想定外の地震と津波に襲われたらどうすればいいのか?我が町でも起こるかもしれない。そんな不安の声が、防災対策課に寄せられており、防災講習会の依頼が急増しています。

■住民の皆さんの声に応えるべく、防災講習会を積極的に開催いたします。自主防災組織や各種団体などで防災講習会を希望される方は、防災対策課までご連絡ください。



▲地区の防災マップを確認しながら、防災対策課職員の話聞く住民(夜須町手結自主防災組織)

約2カ月で21回の開催

4月9日から6月17日まで、間に、防災対策課に寄せられた防災講習会や自主防災組織の説明会の開催依頼は、21回で延べ人数は約850人でした。防災講習会では、岩手県大船渡市で緊急消防援助隊として救助活動に当たった消防署員の活動報告や、宮城県南三陸町などを市職員が視察したときの被災状況、避難所の様子などを現地写真や交えながら説明。また、地盤高の分かる管内図と地区防災マップを持参し、地域の避難場所や住民の自宅周辺の地盤高などを示して、安全と思われる避難場所の確認をしています。

より高い場所を目指して

講習会で最も多い質問に、「今の避難場所が安全なのか」と聞かれます。現時点では、目安となる国や県による新たな被害想定(24年度中に発表される予定)が出されるまでは、安全とは言えないかもしれません。被災地では、3階建ての建物が、屋上だけを残して浸水したり、家屋の屋上に車や漁船が乗り上げたりしていました。地理や地形、地質によつて、災害の条件は異なり、津波の高さも変わってきます。とにかく海岸から離れた陸地続きの高台へ避難し、状況に応じてより高いところに逃げられるところが、避難地として適していると言えるでしょう。



▲視察をした宮城県南三陸町の防災対策庁舎。

常に防災意識をもって

災害が起きてから慌てるのではなく、日頃からやるべきことを考え、実践し積み重ねていく習慣をつけなければいけません。そのためには自主防災組織での活動が不可欠です。地域でどう避難するのか?訓練などを通して避難地、避難路の検証を行い危機対応能力を高めてください。

被災地支援に参加して

石巻中央公民館での
避難所運営支援

管理栄養士
健康対策課 榎 愛子

避難所の現状

私が配属された避難所の中央公民館は、約130人の被災者が生活していました。派遣されたところは、震災から約1カ半経っていたので、職員や被災者の方は落ち着いていました。震災当初は、ずぶ濡れになった多くの方が避難し、水も電気もガスも着替える服もない状態で、何をどうしたらいいのかわからずにパニック状態だったようです。

中央公民館は高台にあり、周辺の家は津波の被害もなく普通に生活をしていたので、本当にテレビで見えるような被害があつたのかと思う程でしたが、近くの山に登り海岸の方向を見ると、テレビで見る光景が広がっていました。あの景色と、その時感じた思いは忘れられません。

栄養不足が気になり

避難所での食事は、昼間は家の片付けに行くなどして避難者が少なくなるため、朝・昼の2食分を一緒に配布していました。内容は2食分で、パン1つ・おむすび2つ・魚肉ソーセージ1袋に時々ジュースです。夜は市販のこつりとしたお弁当と、ボランティアの炊き出しの汁物がついていました。温かい汁物があるだけで本当に心が温まりました。被災者の方は炊き出しが一番喜んでくれます。

私も避難所の食事を食べていましたが、毎日この食事は正直辛いと思いました。しかし4月22日まではお弁当はなく、

おむすびとパンばかりだったので、これでも食事は良くなったと聞きました。

栄養士の会の調査などでは、避難所の9割が栄養不足の結果を受け、強化米(ビタミン)などの栄養成分を添加した米(米)などを推奨していますが、交通の便が良くなった現在は、避難所で130人分のご飯を炊く余力もなく、市販の食への配給に頼っています。栄養不足を解消するためには、おむすびやお弁当などの業者に、強化米を使ってもらえるような民間業者との仕組みや連携、また、魚肉ソーセージ以外のたんぱく源になる食品(冷蔵庫が使えないので常温可の物)の開発

前を向いて

5月5日に、被災地の復興を願って被災者の方とひまわりの種を、中央公民館の2階テラスへ植えました。ひまわりの花が咲いたら、写真を送ってくれると約束してくれました。今はそれがとても楽しみです。何年後にもう一度、復興した石巻市を見に行きたいと思っています。



●被災地の方たちとひまわりの種植えをしました



震災後、人的支援として6月20日までに専門職員や一般職員11人を被災地へ派遣しました。今回は、4月30日から5月8日に宮城県石巻市で、地元自治体職員と共に避難所運営業務などの行政支援に当たった、榎管理栄養士の現地レポートを紹介いたします。

問い合わせ
防災対策課
☎ 57-8501